

带状疱疹ワクチン任意接種費用助成Q&A

通し 番号	問合せ	回答
1	助成対象者は誰になりますか。	接種日当日に、調布市に住民登録のある満50歳以上の方です。 (50歳になる誕生日の前日でも接種可能です。)
2	調布市に在住しているが、調布市以外の自治体に住民登録のある場合は、助成対象になりますか。	調布市に住民登録のない方は対象外になります。住民登録のある自治体にお問い合わせください。
3	接種日に市外へ転出した場合は助成対象になりますか。	転出日(他区市町村への転入日)当日から、調布市の住民ではなくなりますので、調布市の費用助成は受けられません。
4	事業実施開始前の接種費用に対する助成はありますか。	令和5年7月1日(事業実施開始後)以降の接種分が助成対象となりますので、事業実施開始前の接種費用は全額自己負担になります。
5	乾燥組換え带状疱疹ワクチン(不活化ワクチン)の、1回目と2回目の接種間隔が6カ月を超えた場合は助成対象になりますか。	助成対象外です。 当ワクチンの標準接種間隔は2カ月で、1回目接種から2カ月を超えた場合には6カ月後までに2回目接種することと定められています。
6	接種費用はいくらかかるか。	接種費用は医療機関ごとに異なりますので、医療機関に直接お問合せください。 带状疱疹ワクチンは任意接種であり、市の費用助成事業は接種費用を助成するもののため、接種費用は医療機関ごとに設定しています。
7	どこで接種できますか。	市内指定医療機関のみで接種できます。詳しくは市HPをご確認ください。
8	予診票はどこでもらえますか。	指定医療機関でお受け取りください。市から個別での送付は行っていません。
9	市外の施設に入所中でも、調布市の助成は受けられますか。	調布市の費用助成を受けて接種できるのは、調布市内の指定医療機関のみのため、申し訳ありませんが、調布市の助成は受けられません。
10	生活保護を受給しているが、市の助成金額はいくらですか。	助成金額はどなたも一律です。 生ワクチンは、1回当たり4,000円 不活化ワクチンは、1回当たり10,000円です。
11	乾燥弱毒生水痘ワクチン(生ワクチン)と乾燥組換え带状疱疹ワクチン(不活化ワクチン)の違いは何ですか。	生ワクチンは、病原性を弱めた細菌やウイルスそのものを成分としたワクチンです。皮下注射(1回)になります。 不活化ワクチンは、病原性をなくした細菌やウイルスの一部を成分としたワクチンです。筋肉内注射(2回)になります。
12	2種類のワクチンは、どちらを接種したほうがいいでしょうか。	効果持続期間や副反応等が異なりますので、接種医とよく相談のうえ、接種してください。
13	コロナワクチンと同時に接種できますか。	同時接種はできません。前後13日間以上を空けてください。
14	带状疱疹と水ぼうそうは違いますか。	同じウイルスで、水痘・带状疱疹ウイルスが原因の病気です。
15	带状疱疹は人に感染しますか。	带状疱疹は体内に潜伏しているウイルスが原因で発症するため、他の人から带状疱疹として感染することはありません。ただし、まだ水ぼうそうに罹患したことのない人は、ウイルスの感染で水ぼうそうを発症することがあります。
16	带状疱疹は人に感染するとどうなりますか。	かゆみを伴う発疹(水ぶくれ)と発熱をともなう水ぼうそうとして発症します。
17	带状疱疹は子供に感染しますか。	水ぼうそうに罹患したことのない子供や赤ちゃんに感染する可能性があり、感染してしまうと水ぼうそうを発症します。
18	妊婦に感染するとどうなりますか。	水ぼうそうを発症し重症化するリスクが高く、妊娠中に発症した場合には、先天性水痘症候群の赤ちゃんが出生する可能性があります。
19	子供の頃、水ぼうそうに罹患したのですが、带状疱疹として発症する可能性はありますか。	带状疱疹を発症する可能性はあります。 治った後も水痘・带状疱疹ウイルスが体内に症状を出さない状態で潜み、ウイルスが再び目覚めることで带状疱疹として発症します。一方で、水ぼうそうに罹患したことのない人が带状疱疹を発症することはありません。
20	带状疱疹はどのようなことがきっかけで発症しますか。	加齢や疲労、ストレスなどによって免疫力が低下すると発症します。
21	以前、带状疱疹に罹患したことがあるが、50歳を過ぎていればワクチンを接種できますか。	接種できます。 一度、罹患した人でも、体の免疫力が低下すると、再び発症する可能性があり、带状疱疹の予防が必要です。
22	アレルギー体質なのですが、起こりうる副反応について教えて欲しい。	2種類のワクチンで異なりますので、市HPをご覧ください。また、接種医によくご相談下さい。
23	带状疱疹に発症後、免疫はつきますか。	带状疱疹を一度発症すると免疫はつくと言われていますが、再び免疫力が低下した場合には再発することがあります。